



## 夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2024.8.10 号

夏見台幼稚園・保育園でのこ  
わりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。  
※配信停止の方はメールでどうぞ(info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼保園

## 「待つこと」の意味を再考します

前回にも取り上げた『システ  
マティックアプローチによる学  
校カウンセリングの実際』(創元  
社)から、「待つこと」について  
掘り下げます。問題を抱えた生  
徒についての相談に応える、教  
育委員会の先生の執筆です。

著者の一人、薮添隆一先生は経験豊富なカウ  
ンセラーでもあります。その経験の中から、単  
なる対面のカウンセリングではない特別技法を  
紹介しています。それが「待ち抜き法」です。



### 学校カウンセリングの特別技法

## 「待ち抜き法」

- ① 場所は常に同じ
- ② 時間は一定、周期的に継続
- ③ 待っていることを子どもに通知

不登校の子どもの家に家庭訪問します。しか  
し玄関に鍵をかけて入れてくれません。仕方な  
いので、定期的に玄関前で待つのです。

毎週、決まった曜日の決まった時間に、玄関  
先に先生が来て30分立ち尽くして帰っていく。  
それを2階の窓から眺めていた中1の男子。先  
生が通い始めてから2か月過ぎたころから、子  
どもに変化が起きてきたと母親が言います。

「先生が訪問する日の朝だけは、早起きして  
部屋を掃除していました。訪問時刻の16時に  
は、玄関先が見渡せる2階の出窓で待つよう  
にもなりました。そしてちょうどそのころでした」。

台風が来たのです。直撃時間は訪問時刻に重  
なります。「やったぞ。あいつはとうとう吹っ飛  
ぶぞ!」と口では言いながら、子どもの表情は  
不安げだったといいます。「いくらアホでも台風  
の日に来ることはないよな」とも。

しかし先生は来ました。玄関先で30分、体  
を張って立ち尽くしました。その様子を出窓か  
ら見守る子ども。先生は去り、台風も去り、秋  
が来ると子どもは登校を開始したといいます。

もちろん、こうした事例をもって、今の学校  
の先生に同じようなことを要求するのは酷なこ  
とです。この本は今から30年以上前のもので  
す。当時は不登校も少なかったので、希少事例  
としての対処だったのでしょう。

ところが、こうした子どもを「待ち抜く」行  
為は、先生たちの心にある変化をもたらしたと  
いいます。

### 待ち続ける間に何が起こったのか

どの先生も最初は「生徒との話し合い」  
を期待していた。  
待つことは話し合いに持ち込むための「手段」  
だと思っていた。



待ち続けているうちに待つことが「手段」から  
「目的」に変わっていった。

なぜ不登校になったのか、その理由を話して  
くれない、だからどうしても直接会って話がし  
たい、そのためには待たなければならない。つ  
まり「待つことは手段」でした。待って、その  
あとに訪れる結果が重要でした。そのために単  
調でつらい待つ作業を継続していたのです。

待つ時間は退屈でもあります。いろいろなことを考えます。やがて待ち続ける先生たちの心境が変化します。「待つこと自体が目的」になるというのです。

**教師たちはみな「待つことが癖になり生きがいになった」と言う。**

**手段として待つことは苦痛。  
しかし待つ行為がそれ自体、目的性を  
帯びてくると生きがいようになってくる。**

それを著者の藪添先生はこう表現しています。

**「待つこと」= 愛する修行  
と考えれば納得できる**

藪添隆一先生



「だから先生は大変だ」ともいえますが、ここから私は大きなことが学べました。

また藪添先生はこのようにも書いています。

**登校拒否・場面緘黙・拒食など  
→ 待ってくれない大人社会への反応**

**子どもの知識欲を満足させるはずの学校が  
知識欲が芽生えるまで待ってくれない**

**おしゃべりを聴いてくれるはずの大人が  
しゃべりたくなくなるまで待ってくれない**

**空腹を満たすはずの食事が  
おなかが減るまで待ってくれない**



忙しい現代社会は待ってくれません。その急かされる余裕のなさに、繊細な子どもの心が反応しているのだと。この本は30年以上前に書かれています。スマホの登場で現代のスピード感は加速しています。

**愛は要求した分だけ与えられる経験によって満たされる。  
欲してもいないのに与えられたり、  
欲しても与えられなかったりし続けると  
慢性的な心の風邪を引くようになる。**

**無条件に  
待っている  
人の存在**



私もまた、「待つこと」は手段だと思っていた。園の説明会でも「待つことにより、子どもに時間と空間を与える。自分の頭で考えて行動するようになる。意欲を育むには待つことが大事です」と話しています。

しかし人間の心とは、そうした計算の外で発達・成長するのだと思いなおしました。

「確かに子どもには意欲的になってほしい。その結果がほしいから、待たなければならない」

ではなくて、子どもに寄り添う存在としての待つ行為。やはり「結果（意欲的になる）」よりも「プロセス（待つ行為自体）」が重要だったのだと、再認識させられました。（終）

**(×) 待つことは手段  
(◎) 待つことが目的**

**「待つこと」それ自体に  
意味があった！**